

「小論文（医学部看護学科）」

【出題意図】

課題文は、OECD が打ち出した新しい能力の枠組み（キーコンピテンシー）の柱である読解リテラシー、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3つの能力を説明し、デジタル時代に必要とされる読みの能力に焦点を当て、その能力がどのような事柄や環境と関係しているかについて述べられている。資料の図は、2006年から2018年の12年間に
行われた5回のPISA（国際学習到達度テスト）のOECD加盟国と日本の平均得点の推移を示している。

問1【出題意図】

文章の読解力をはかる。

問2【出題意図】

文章の読解力と限られた文字数で問の答えを説明する能力をはかる。

問3【出題意図】

資料の図表が示している結果を正確、かつ的確に把握する力をはかる。

問4【出題意図】

課題文と資料の内容を理解し、それらを基に自分の考えを論理的に記述する論理構成力を含めた文章表現力をはかる。

[出典]

・課題文

バトラー後藤裕子著「デジタルで変わる子どもたちー学習・言語能力の現在と未来」

筑摩書房（2021）から一部改変して作成

・図表

国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA2018）のポイント」から

一部改変して作成

【解答例】

問1. 下線部の「リテラシーの概念」は、どのような能力を指すのか、70字以内で記述しなさい。

解答例) 単なる知識の習得ではなく、必要な情報を選択・処理し、それを実生活の中で意味のある形に再構築し、その過程を振り返ることのできる能力のこと(67文字)

問2. どのような内容のデジタル絵本をどんな条件で読むと読みに効果的なのか、130字以内で説明しなさい。

解答例) 絵やイラスト、バックグラウンド音楽やホットスポットがストーリーと一致しており、視覚と聴覚の情報が同時に与えられ、一度に処理できる作業記憶量が考慮されている絵本を、積極的に情報処理プロセスに取り組めるように集中できる条件があるところで読むと読みに効果的である。

(129文字)

問3. 資料の図「日本及び OECD の生徒(15歳)の学習到達度調査(平均得点の推移)」から読み取れることを300字以内で記述しなさい。

解答例) 日本と OECD の平均得点を実施年度で比較すると、数学および科学リテラシー、読解力ともに日本が高い。3項目の推移をみると、日本は2006年で科学リテラシー、数学リテラシー、読解力の順に高いが2012年に読解力は数学リテラシーを上回り、それ以降下降している。2018年の平均得点は科学リテラシー、数学リテラシー、読解力の順である。OECDの2006年平均得点は、科学リテラシー、次いで数学リテラシー、読解力の順に高い。OECDも日本同様に2012年の平均得点は、読解力が数学リテラシーを上回ったが、2018年に数学リテラシーを下回り、科学リテラシー、次いで数学リテラシー、読解力の順に高くなっている。(298文字)

問4. 課題文と資料をふまえて、デジタル時代において、読みの力を高めるためにどんな取り組みが必要か、あなたの考えを500字から550字で記述しなさい。

解答例) 読みの力とは、書いてあることの理解にとどまらず、様々な情報ツールから入手できる聴覚情報、視覚情報、空間情報、触覚情報を基にした総合的な理解力や解釈力であり、それらから生み出される創造力も含まれると考える。近年、日本人の読解力が低下してきていることから、これらの力を総合的に身に着けることが必要だと思う。具体的には、現在のコロナ禍で安全な遊び場所を探す時、人の混み具合をネットで調べたり、実際に行った人に聞いたり、その地域にある飲食店や映画館、遊園地などの感染対策などを多角的に調べ、感染の危険が低く、楽

しめそうな場所を見つける力をつけることが読みの力をつけることであると考ええる。このような力をつけるには、日ごろからメディアや身近な人からのコロナに関する最新の正確な情報をキャッチし、自分自身のニーズに合わせて、その情報の活用方法を考える必要がある。デジタル時代において「読み」の力をつけるための具体的な方法は、問題解決のための情報活用力ともいえるため、身近に情報収集のツールを置き、本当のことをできるだけ正確に調べる習慣を付けることであると考ええる。また、作業記憶量を保ち、自身の情報処理能力を落とさないためにスマートフォンを長時間見続けたり、大音量で音楽を長時間聞かないように注意したい。(543文字)